

—市村氏執筆終了に寄せて— 濱 博一

何度か執筆が途切れていた本欄。とうとう、執筆者の市村氏が、書くことをお止めになられてしまった。文筆家ならば「筆を折る」という表現になろう。

このささやかなニュースレターは、編集をしないという編集方針に基づき、毎号多彩な方々のそれぞれの視点、文体でお届けしてきた。そのためか、お寄せいただく反響も多様で、本欄のファンの方も少なくなかった。

発行元というほどの規模ではないものの、一応ご提供をさせていただいている代表としても、残念な思いがしている。

個人的にブログというものを書き始めて1年以上になる。インターネット上で公開日記を書くようなものだ。このブログの影響力は大きく、小泉政権の人気を下支えして、あの歴史的大勝をももたらしたとも言われている。

そのブログでも読者から頂くコメントが、筆者を支えることを実感している。いつもコメントを頂戴する方から、しばらく頂けないと「どうしたのだろうか」と気がかりになるし、コメントの内容に励まされて、また新たに「書く元気」を頂いたりする。

往復書簡という形で相互に励まし、学んできた諸先輩方の逸話を伺うことは、少なくない。時代が移ろい、用いられる媒体が変わろうとも、人として共感・共鳴する輪を持ちたい。その中で何かを感じ取りたいという願いは変わらないのではないか。

このささやかなニュースレターにもそんな役割があり、お届けさせていただいている皆様とつながる何かを共有できれば、無上の喜びだと思ふ。

引き続き、ご声援をお願い申し上げます。

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2007/10  
(株) アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1166  
石川県金沢市上若松町23番地

電話 076-233-7217  
Fax 076-233-7375  
Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2007/10  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

## 神無月



夢の平スキー場(富山県砺波市) by shio

今回事業として取り組んだ末広保育園を舞台とした「ふれあい傘記念日」が成功してとても嬉しく思います。

金沢・若人もれしやん塾と出会って数多くのことを学びました。現在の自分があるのはもれしやん塾のおかげだといっても過言ではありません。まだまだ足りない所がありますけど……もれしやん塾との出会いは偶然の出来事でした。中学の頃から続いていた陸上競技をやめる事を決めて何かしたいのだけれども何をしたいかわからないモヤモヤした時期をすこしていました。そんなある日、授業で街に来ていた時に通りで何かしているのに気づき覗いてみると学生達が集まってイベントをしているの。水引体験であったり加賀友禅作家による話したり。なにより学生自身が企画しイベントを開いているということに強く引かれました。そして自分が探していた「何か」がここにあると強く感じました。それが自分ともれしやん塾との出会いとなり現在の自分が出来ていると思っています。人と人の縁はどんな所にあるかわからないと言いますがまさにその一例ではないでしょうか。

今回もれしやん塾で取り組んだ「ふれあい傘記念日」なんです。手探り状態からの出発でした。もちろん自分達で企画書を作り事業を開くなんて言ったことは今までした事があるわけもなく何をしたいかまったく分からず、先輩方や先生のサポートの下、アドバイスをいただきながら少しずつ完成させていきました。今回の事業である「ふれあい傘記念日」は地域コミュニティの構築を目的としています。地域の高齢者や地域住民を保育園に招き園児と一緒に和傘の色塗りをします。現代社会が抱える問題として家庭内暴力であったり、幼児虐待、子供の凶悪

犯罪、高齢者の孤独死、どれも悲しい問題があげられます。人と人の関係が希薄になり人を信用できなくなった結果ではないでしょうか。なぜ和傘かと聞かれると傘は最小単位のコミュニティの現場だと考えているからです。親と子、高齢者と子供、一つの傘にはいることで同じ空間や時間を共有し、その中に「あたたかさ」や「やさしさ」といったものを作りあげます。現代の社会に一番忘れられているものを傘は思い出させてくれると考えています。また金沢和傘は金沢の伝統工芸であり、現在では和傘職人が松田さん一人しか残っていません。これから社会を創っていく地盤となる保育園児に和傘（本物のもの）とふれあってもらうことがよい社会をつくる基本となると考えています。

準備期間で様々な問題が起こりましたが「ふれあい傘記念日」は無事成功することができ本当によかったです。高齢者や園児の色を塗っている時の笑顔がこの事業をして本当によかったと思えた瞬間でした。出来上がった和傘はどこにもない世界に一つだけの商品であり一つ一つが個性をはなっています。また保育園で「ふれあい傘記念日」をおこなった10月11日を「ふれあい記念日」として指定していただき、毎年何かできたなら良いなと考えています。



## 濱のつばやき 「一縷」

『好事魔多し』という。

長く「好事魔・多し」と誤解していた。正確には、「好事・魔多し」である。

好事とは、良いこと・目出度い事なのだが、どうも「誰にとっても良いこと・筋の良い話」と解釈した方が、この格言の意味が通ずるようだ。

仕事柄、色々な企画が持ち込まれる。守秘義務から委細は一切申し上げられないが、中には本当に筋の良い素晴らしい企画提案にお目にかかることがある。ところが、ここに一つの誤解があるように思っている。

通常、人は筋のよい話、つまり何処から誰から見ても良い提案で、社会的にも意義のあるものであれば、あるほど成功する確率が高いと考えられているようだ。

が、そうは問屋が卸さないから世の中は不思議だ。自分の経験上、このような筋の良い提案であればあるほど、実は注意しなければならぬことが多くなり、慎重に事を進めなければならぬ。まさに好事ほど「魔に多く出遭う」のである。

「好事ほど魔に多く出遭う」とは解せぬ方も少ないだろう。そんな時に紹介する例え話が「蜘蛛の糸」。芥川龍之介の短編である。

記憶でざっとご紹介するので細部の過誤はお許しただきたい。

悪事を重ねた盗賊が死んで地獄に落ちた。地獄の

熱湯に浮き沈む様子を極楽から見かけたお釈迦様が、彼が生前一匹の蜘蛛を助けたことを思い出す。早速一本の糸を地獄へと下ろしてゆく。ぴたりと盗賊の眼前に降りた一本の糸。彼は苦しみの中からそれが極楽浄土へ続くと察知するや、手繰って一心に昇り始めた。

丁度中ごろに至り、ふと下を見ると、自分が掴んだ一本に大勢の地獄の者も気づき、群がっている。あせった盗賊は叫ぶ。「これは俺の糸だ！」

次の瞬間、男の手のすぐ上で糸はプツリと切れ、もろとも再び地獄に落ちていった……

好事はそのご利益を多くの人が容易にわかる。するとそれに群がる人々が膨らんでくる。互いに我欲を張り出すと見る見るプロジェクトは崩壊してゆく。当初、一人の心中にあった崇高な理念は消し飛ぶ。

街づくり・地域づくりの「現場」は、崇高な理念・輝く希望と、個々人の我欲の混交する坩堝（るつぼ）である。真逆の対を成す両者は丁度、好天の際に日の光が強いと影が濃くなるのと似ている。一方があるから、反対の一方が生ずるのである。

光を絶賛し、影を揶揄するのは容易だ。しかし両者が一對のものであると判れば、影に引きずられぬまま、光り輝く成果を挙げる道を歩むことにのみ集中すればよい。影に怯え、影を批判しているだけでは、光り輝くとさえ失うのではないか。

好事に回り逢えた時、好事であるからこそ、魔の多きことを自覚し、覚悟を持って一縷の道を進めば良い。

その役割を与えられたことに、そのご縁を頂いたことに、感謝をこそしたいと思う。



きただより(26) ノースアジア大学 上村 康之  
『岩手県奥州市江刺の「蔵まちロード」と「黒船」』

岩手県奥州市。実に壮大な名称であるが、2006年2月、水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村が合併して誕生した。旧江刺市は、「岩谷堂筆筒」「えさし藤原の郷」「江刺りんご」が有名であるが、人口3万5千人の地方小都市の中心街は衰退の一途であった。

そこで10年ほど前、中心街を見直そうという動きがおき市民の有志らにより、1997年5月、まちづくり会社「黒船」が誕生した。当時、「商業のまち江刺」の象徴であった蔵がどんどん壊されていたが、蔵を活かしていく方向でまちづくりがはじまり、蔵の実態調査を行ったところ中心街の半径500m内に134棟があった。

旧江刺市は街路事業により「蔵まちロード」(約300m)を整備した。その中心部に位置する施設が黒船による「黒船ガラス館・オルゴール館」である。設立当初ノウハウは、滋賀県長浜市の「黒壁」から学んでいる。また、江刺の観光情報センターの役割も担っている。昨年は、既存の蔵2棟を連結した地産地消レストラン「えさし蔵町食財館えびや」が公設民営方式でオープンし、単年度から黒字とのことである。この2施設以外にも、民間、行政により、既存の蔵を活かした店舗、あるいは黒瓦に白壁に統一し蔵風にした建物などが中心市街地に続々と誕生している。蔵まちロードを中心に、戦時中、江刺に疎開していた菊田一夫氏に関する記念館、岩谷堂筆筒の工房、蔵づくりの喫茶店などもあり、2~3時間の徒歩での周遊にはちょうどよいまちの広さである。

蔵のまちといえば、福島県喜多方市に代表されるように古い蔵を保存するという形が多いが、江刺は古い街並みを保存するという形ではなく、蔵を活かしつつも現代風に統一感のある景観、街並みに造り変えてきたといえる。「えびや」のスタッフの話であるが、「私たちも、この蔵町のこれからの展開が楽しみです」と言っていたのが印象的であった。江刺は今後も注目していきたいまちである。

【株式会社 黒船】

〒023-1113  
岩手県奥州市江刺区六日町7番22号  
TEL: 0197-35-0051/FAX: 0197-35-0081



『温泉への誘い(55) 高原の温泉その2』

著者ご本人のご希望により、インターネット版ではご覧いただけません。

『Insurance&Taxコンサルティング No.9』  
プルデンシャル生命保険(株) 金沢支社 窪 正裕

相続について⑥

遺言状の必要性②

今回のケースは、遺言状があっても思ったようにならないという場合です。相続は遺言状を用意しておくだけでは、すべて解決できるということでは決してありません。

Case Study

山口さん(仮名)は、35年間クリーニング店を営み、その間3人の子どもをもうけました。小さいながらも店舗兼住宅を買って店を構えました。その店も長男が継いでくれたこともあり商売はとても順調でした。山口さんは奥様と相談して、長男に店舗兼住宅を相続させ、あとの二人の子どもには、小額の預金を相続させるという内容の遺言状を作成しました。後日その内容を、3人の子どもたちに伝えたところ、長男は了承したのですが、残りの子どもたちは納得しませんでした。長男の相続財産に比べて、自分たちの分は少なすぎるというのです。山口さんは頭を抱えてしまいました。もし子どもたちの主張どおりの配分にしてしまうと、店を売らざるをえません。そうなると家業が続けられなくなります。

Answer

家業を継ぐひとりの子どもに財産を集中させたいというケースでは、子の間(兄弟姉妹)の遺産分割が問題となります。現行法では、子は均等に相続することになっています。事業用財産を分割してしまうと、後継者の生計が成り立ちませんから事前対策が重要になります。後継者である長男に集中して相続させたい場合には遺言が必要です。しかし、他の子には遺留分がありますので、遺言状どおりにならない場合がおきるので、その事前対策として以下のものが考えられます。

①生命保険を利用する

生命保険に加入し、死亡保険金受取人に他の子どもたちを指定し、各々の相続財産にあまり差がないよう準備する。

②生前の遺留分の放棄をかける

自分の存命中に子どもたちに遺留分を放棄するよう説得する。この手続きは家庭裁判所の審判が必要なので、長男以外の全員に手続きしてもらおう。これで遺言状があれば、確実に長男に相続させることができます。

注意

もし子どもたちが相続放棄を約束したとしても、生前の相続放棄は法的効力がありません。くれぐれもトラブルの元にならないようにご注意ください!!

## 【 犬のお話、今昔 】

我が家に犬がやってきた。名前は「コハル」、白のトイプードルのメスである。娘が5年間程前から「犬を飼ってほしい」と言い続けてやっと実現した。

私にとって犬を飼うのは小学2年生のとき道端で拾ってきた「コロ」が高校2年に死んで以来だから、もう30年振りぐらいになるだろうか。犬を飼うのは、もともと大好きなので大歓迎で、この小さな白い「コハル」を出迎えた。

「コハル」が家に来てまず驚いたのが、娘と家内が「ドッグフードしか与えてはダメ！」と、しきりに私に言うことである。昔なら「今日の夕飯はサンマだから、コロが喜ぶぞ！」と思いつつ、夕飯のおかずのサンマの骨をよけていたものだが、今やこの楽しみは完全に抹殺され、コハルは茶色の乾いた豆粒のようなものだけを食べている。「よく毎日こんなウサギのフンのようなもんばかり食べて生きていけるね？」と私は半ば犬に同情しながら娘や家内に言うのだが、「長生きさせようと思ったら、ドッグフードしか食べさせないで！」の一点張りだ。「世の中みんなこんなふうになってしまったのか・・・？」と私は半ば浦島太郎のような心境で、「コロは幸せだったな・・・」と30年前に死んだ愛犬のことを思い浮かべていた。

毎日の餌は家族の残り物で、時々道端で死んだカエル干物を美味そうに食べていた。予防注射は狂犬病のみ。実家は田舎なので、年中放し飼い。それでも口笛一発で1km以内なら1分以内に必ず家に飛んで来た。中学になってバス通学すると、帰りはバス停まで毎日出迎え。近くの古井戸に落ちて泳ぎつづけ、もうすこしでお陀仏のところを隣の人に助けられ、外から来た黒い野良犬と決闘し、耳を半分引き裂かれながらも自分の縄張りを守り、近所のメス犬はすべてコロの子供を生んだ。このように現代の感覚からすれば、『アリエナイ！』飼い方をしていたのだが、私に言わせれば、犬と人間は最後の氷河期以来一万年以上ずっとこんな感じで付き合ってきたのだ。しかし、あの茶色のドッグフードは世に出てたかだか2~30年の歴史である。いくら栄養

バランスがいいとか、長生きすると言われても、素直に信じることができない自分はやはり時代遅れなのか・・・と思いつつ、娘と家内の目を盗みながら、こっそり自分の食事をコハルに与えているのであった。



## 第五十八章

其政悶悶。其民淳淳。其政察察。其民缺缺。禍兮福之所倚。福兮禍之所伏。孰知其極。其愈正。正復爲奇。善復爲妖。人之迷。其日固久。是以聖人。方而不割。廉而不。直而不肆。光而不耀。

様々な組織・企業において、内部矛盾が表面化し、まるで「そろそろ清算しろ」とでも言わんばかりの勢いです。

社会保険庁、原子力発電所、飲食料品メーカー、家電製品メーカーなど、本当に広い範囲です。こどもが親の目を見ながら、どこまでなら許してもらえるのか、見つからないのかを探り、悪さをしているのが、エスカレートし、ついには大目玉を食らうのと似ているような気がします。

最近ですが、当社創業以来冷蔵庫の上に置かれていたナショナル製の電子レンジが安全面で問題が生じたらしく、16年も経過しているのに、新品と無償で交換でした。

瞬間湯沸かし器についても無償点検・部品交換が行われました。これも16年使用しているものです。

ファンヒーターは、私の前家にあつたものが対象になっているはずですが、現居住者が継続して使用しているとすれば20年以上使用しているはずで、これも部品交換費、人件費、交通費を考えればとんでもない経費になるかもしれません。

消費者の権利と生産者の義務は守らなければなりません。家電製品の寿命というもの、言うなれば「使用保証期限」のようなものがあっても良いような気がします。

何から何まで企業や国、地方自治体に責任をかぶせ、自らを守ろう、自らの利益のみを守ろうとする意識を変革しなければならない時期にきて

いると思います。

消費者の満足度を高めるために、一時的な不利益が生じたと感じても、長期的には対応した方が良く考えるのか、本当に使える期間は常に安全を保障するという姿勢を貫いているのか。

この関係を都市および地方計画、地域振興、環境・防災・福祉・教育など結構広い範囲を対象としているプランナーの業務に置き換えてみると、プランナーが計画の実施に対し責任を負うということは

考えずらく、指標として現実可能な計画であると言うことを示すのが限界だと思えます。

プランナーの果たす役割は、消費者と生産者の間に立ち、両者が一定程度納得のいく「ルール」づくりを提案することでしょう。「使用保証期限」「故障前兆現象の説明責任」「消費者の使用保証期限延長のためのオーバーホール責任」「期限付き生産者の部品保存責任」などです。

消費者アンケート、生産者ヒアリング、技術的課題、経費的負担など様々な条件整理を行い、消費者・生産者両者の折り合いがつくポイントを探り、方策、実現化策を出していく過程は、他の業務となんら変わらない流れです。

純粋な建設コンサルタントのプランナーとして、確かにあまり「今」は調子の良い時期ではありませんが、私も当然含めて、他の分野でプランナーとしての技術を活かす方法も模索しなければいけないのでしよう。

by shio

